これまでの取組みの成果の集大成 !!

日刊
未来タイムズ

岐阜市 子育てするため戻って来る人が日本一!!!

次週刊行される日経グローカル2月号で、岐阜市が全国の自治体を対象とした「子育てするために戻りたいまち」ランキングで1位を獲得することが21日、当社の調べで明らかになった。

同市の子育て関連施策が全国の子育て世代から高い評価を得た結果とみられ、人口減少が進む中でも20代、30代と10歳未満の世代で人口動態がプラスに転じている。岐阜市の具体的な施策については、同誌で詳しく紹介される予定だ。

岐阜市未来新聞
2040.1.21
号外
編集者
花　子、ことさん、ゆかり、みつはし、けんじ、うっちー、小　熊

学びの場を創出!! 「岐阜市未来アカデミー」

岐阜市の「未来アカデミー」構想では、市内全校で地域資源を活用した教育プログラムが推進されており、平日の授業のみならず、放課後や休日、また長期休業中などの活動に役立っている。和傘や岐阜ちょうちんなどの伝統工芸について学びを深めたり、プログラミング実践や、起業体験など、従来の座学中心の教育から大きくシフトし、実践的な学びが展開されている。

子供たちは「和傘づくりやゲーム開発、これらを販促できる起業に挑戦したい」と意欲的に参加し、地域の職人や専門家との交流を楽しんでいる。

タブレット端末を使ったデジタル制作と伝統技術の融合が創造的な作品につながり、「中学生と共に新技術を学び、孫との会話が増えた」（70代・男性）との声も聞かれる。

また、市内で6校の小中一貫の義務教育学校が開学し、9年間の継続的な探究学習が実施されている。保護者からは「子供が楽しんで通っている」といった安心の声が寄せられ、市外からの移住希望者も増加。岐阜市は教育ブランドの確立を進め、「子育てのために戻る人が日本一」の目標の達成した。

多世代が交流するアカデミーでの学習風景

大人から子供まで交流、「柳ケ瀬ごちゃまぜプログラム」

岐阜市の柳ケ瀬商店街では、世代間交流の「柳ケ瀬ごちゃまぜプログラム」が市民に親しまれている。

商店街の空き店舗や公共空間を活用し、大人と子供が入り混じった多世代イベントを定期開催。地域NPO法人や商店街団体との連携により、創業・起業への機運も高まっている。市民参加の機会不足が課題だった市では、行政のサポート制度のもと、柳ケ瀬全体での体系的支援体制を構築。

月数回開催される多世代ワークショップや、老舗店主の知識を若い世代に継承する「柳ケ瀬知恵のごちゃまぜプロジェクト」、「ごちゃまぜカフェ」運営などを通じ年齢を超えた学び合いとふれあいの場を日常的に提供している。

「子供と大人がごちゃまぜで楽しめる柳ケ瀬に感謝」（30代・母親）といった声も上がり、大人も子供もともに自発的に参加する環境づくりが商店街全体に着実に根付いている。今後は市域全体にこの取組みを広めていく考えだという。

イベント開催に向けたワークショップの様子

安心できる子育て環境「ひなたプロジェクトセンター」設立!!

岐阜市の子育て支援体制が大きく前進している。「ひなたプロジェクトセンター」では、子育て関連の情報発信や相談窓口の整備を核とした包括的なサポート体制を構築。公民館機能、児童館、保育所、生涯学習講座、コワーキングスペースを兼ね備えたリスキリングの拠点として、地域のニーズに応えている。

これまで支援体制の整備不足のため、若い世代の移住が進まなかった同市が10年前から、移住者や子育て世代が安心して生活できる環境整備に本格的に取り組み始め、現在、市内5か所で運営されており、親子で参加できるイベントの充実が図られているほか、地域での子育てサポーターの育成にも力を入れている。

育児経験豊富な地域住民を対象とした研修プログラムを実施し、専門的な知識やスキルを身につけた地域サポーターを育成する仕組みを構築。また、交通の利便性の欠如という課題に対応するため、アクセスが困難な家族向けの送迎サービスや、オンラインでの相談対応も充実させている。利用者からは「岐阜市は最高の子育て環境です！」（20代・父親）との高い評価が寄せられ、暮らしの環境を重視した取り組みの成果が着実に顕現している。この取り組みが、2040年の目標達成に大きく貢献していることは言うまでもない。

施設内の育児スペース（このほか、保育所やコンシェルジュ常駐の相談窓口など子育て支援機能を併設）